

情報デザイン専攻

画像情報処理論及び演習I

-前期課題の復習-
レポート、成績、後期の予定・予習

第14回講義
水曜日 1限
教室6218

吉澤 信
shin@riken.jp, 非常勤講師
大妻女子大学 社会情報学部

独立行政法人
理化学研究所

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

今日の授業内容

www.riken.jp/brict/Yoshizawa/Lectures/index.html
www.riken.jp/brict/Yoshizawa/Lectures/Lec14.pdf
補講日: 7/27(金)5限: 6218室

- ① レポート3の返却. ✓ レポート3の採点結果を取りに来てください.
- ② 後期の予定. ✓ 今日ではみんな自分の成績を確認しに来てください.
- ③ 補講・成績について.
- ④ 演習: レポート1~3の内容.

↑出来ちゃってる人は...次ページのプログラミング課題をやってください. 出来たら成績に加点します!

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

レポート出来ちゃってる人への課題

- ✓ 以下のプログラムを一から作ってみましょう!
- ✓ 出来たら手を挙げて呼んでください、**1プログラムにつき最終成績に5点加点(レポート点約25点分・出席約2回分)します。**
- ✓ ヒントは本講義資料の一番後ろにあります。
 - エンボス画像生成.
 - 勾配強度画像生成.
 - Gaussianフィルタ. } 理論は後期にやります。後期のレポートで出します!
 - Laplacianフィルタ.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

出来る人のための課題1

- ✓ エンボス画像生成↓のプログラムを一から作成!

1. pgm画像を読み込む、画像Aとする.
2. ネガポジ反転し画像Bとする.
3. Bを平行移動しAと合成する.
4. 結果を0~255に正規化しpgmでセーブ.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

出来る人のための課題2

- ✓ 勾配強度画像生成↓のプログラムを一から作成!

1. pgm画像を読み込む、画像Aとする.
2. Aからx,y方向の微分を差分近似し画像B,C(勾配ベクトル画像)とする.
3. BとCから勾配ベクトルの大きさを計算し画像Dとする
4. Dを0~255に正規化しpgmでセーブ.

$I(x, y)$

入力

勾配強度画像

$$\|\nabla I\| = \sqrt{I_x^2 + I_y^2} \quad \|\nabla I(x, y)\|$$

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

出来る人のための課題3

- ✓ Gaussianフィルタ↓のプログラムを一から作成!

連続式:

$$I^{new}(x) = \frac{\int_{\Omega} g_{\sigma}(|x-y|)I(y)dy}{\int_{\Omega} g_{\sigma}(|x-y|)dy}$$

ガウス関数

$$g(r) = \frac{1}{2\pi\sigma^2} e^{-\frac{r^2}{2\sigma^2}} \quad \text{Smoothingパラメータ } \sigma$$

離散化式:

$$I^{new}(i, j) = \frac{\sum_{y=-r}^{y=r} g(i-y) (\sum_{x=-r}^{x=r} g(j-x) I(i-x, j-y))}{\sum_{y=-r}^{y=r} g(i-y) (\sum_{x=-r}^{x=r} g(j-x))}$$

重み付平均の半径 r


Smoothing, 5.0

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

出来る人のための課題4

✓ Laplacianフィルタ↓のプログラムを一から作成!

連続式(拡散方程式):

$$\frac{\partial I(\mathbf{x}, t)}{\partial t} = \Delta I(\mathbf{x}, t),$$


離散式(拡散方程式の陽的前進一次差分近似):

$$I^{n+1}(i, j) = I^n(i, j) + \varepsilon(-9I(i, j) + \sum_{y=-1}^1 \sum_{x=-1}^1 I(i+y, j+x))/8,$$

ステップサイズパラメータ $\varepsilon < 0.5$

m回繰り返し適用する.

ICG-ARTS 2014

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

後期の予定1

✓ 周波数分解・ファイルI/O
 ✓ フィルタ処理・エッジ強調
 ✓ 計算Photography
 ✓ Artistic Stylization
 ✓ 動画処理
 ✓ 幾何・形状・パターン認識



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

後期の予定2



特にフィルタ処理とフィルタを用いたスタイル化.



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

後期の予定3

「動画処理・オブジェクト追跡」
 「エッジ・形状抽出」
 「特徴抽出」
 「パターン認識」



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

補講日について

7月27日(金): 5限16:20-17:50、6218教室.

✓ 補講対象: 単位取得がヤバイ人+「あと数点で一つ上の評価(C→BやA→S等)なので何とか...」という人なので、今日までの評価で満足(*^*)な人は来ても、来なくてもOK.

✓ 補講内容:

- 単位取得についての相談: 就職決まってるので何とかして! $p(\geq \square \leq)q$ という人は 内定書や採用通知のコピー を持って来る事.
- 基本はレポート1~3をやって提出してもらいます.
- 今日と同じ「出来る人へのプログラミング課題」.
- 他の必修科目補講へ出席の方は出席扱いにします.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

では、演習を始めてください

www.riken.jp/brict/Yoshizawa/Lectures/index.html
www.riken.jp/brict/Yoshizawa/Lectures/Lec14.pdf

✓ (今日までの)自分の成績が知りたい人は教えます.

- ① レポート1~3の解説・質問.
- ② ↑出来ちゃってる人は...プログラミング課題をやってください. フィルタは後期のレポートで出します!

みなさん良く頑張りましたd(>_<)
 今日で通常の授業は終わりです.

みなさん最後まで来てくれてありがとーo(≧▽≦)o

✓ 単位ヤバイ人と1段上の評価欲しい人は 補講日(7/27:5限) に来て下さい.



レポート1のヒント



演習: レポート1の内容

www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/index.html

- ✓ Q1(簡単): ppm画像をpgm画像へ変換するプログラムを作成.
- ✓ Q2(簡単): pgm画像を与えられた閾値を用いて2値化するプログラムを作成.
- ✓ Q3: pgm画像をHue画像へ変換するプログラムを作成.
- ✓ Q4: pgm画像の画像全体の輝度値の最大値、最小値、平均値、及び中央値を計算するプログラムを作成.



Q1: カラーからグレースケールへの変換

www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Ex01.zip

1. カラー画像(ppm)を読み込んでR,G,Bの平均値を輝度値とするグレースケール画像(pgm)を保存するプログラムを作成せよ.
2. argvを使って、入力ファイル名、出力ファイル名を指定出来る事.
3. ヒント: ex01.cxxとex01_2.cxx.
4. #include<stdlib.h>を忘れずに!



Q2: 閾値を用いた2値化

1. **pgm画像**を読み込み、閾値以下の輝度値を0、閾値以上の輝度値を255に変更した2値化画像(pgm)を作成・保存するプログラムを作成せよ.
2. argv, atoiを使って、入力ファイル名、出力ファイル名、**閾値**を指定出来る事.
3. ヒント: ex01_02.cxxのコメントアウト部分.



Q2: ヒント

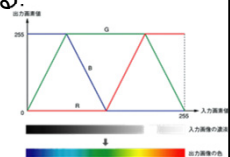
1. lena.pgmで閾値を64、96、128、160、192で実行した結果は以下のようになります.



Q3: Hue変換

1. pgm画像を読み込んでHue疑似カラー画像へ変換するプログラムを作成せよ.
2. argvを使って、入力画像ファイル名、出力画像ファイル名を指定出来る事.
3. ヒント: 入力の輝度値⇒HueのRGB変換用の関数を三つ用意する.

右のグラフと同様に色を変換する.



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q3: ヒント

$$\text{HueR}(x) = \begin{cases} 0 & 0 \leq x < 128 \\ (255/64)x - 510 & 128 \leq x < 192 \\ 255 & 192 \leq x \leq 255 \end{cases}$$

$$\text{HueG}(x) = \begin{cases} (255/64)x & 0 \leq x < 64 \\ 255 & 64 \leq x < 192 \\ -(85/21)x + (7225/7) & 192 \leq x \leq 255 \end{cases}$$

$$\text{HueB}(x) = \begin{cases} 255 & 0 \leq x < 64 \\ -(255/64)x + 510 & 64 \leq x < 128 \\ 0 & 128 \leq x \leq 255 \end{cases}$$

- ✓ $y = ax + b$ の連立方程式を解くと左の関数が導出出来る.
- ✓ 注意点: プログラム内で(255/64)などは浮動小数点(255.0/64.0)とする事.
- ✓ forの二重ループで変換し保存.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q3: ヒント

- lena.pgmでそのまま`in->img[i][j]`を変換したのが左の結果になります.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q4: 統計

- pgm画像を読み込んで輝度値の最大値、最小値、平均値、及び中央値を計算し表示するプログラムを作成せよ.
- argvを使って、入力画像ファイル名を指定出来る事.
- ヒント: 中央値は、輝度値の値を大きさでsortした場合に、 $N/2$ 番目の値. ただし N は画素数.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q4: ヒント

- 中央値は画像をImage *inとすると以下のようにstandard libraryを使うと簡単.

```
#include<algorithm>
#include<vector>
std::vector<double> val;
forの2重ループで
val.push_back(in->img[i][j]);
その後
std::sort(val.begin(),mval.end());
double median = val[val.size()/2];
で計算.
```

lena.pgmの正解は、
 最大値: 245
 最小値: 26
 平均: 124.604736...
 中央値: 129

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

レポート2のヒント

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

演習: レポート2の内容

www.riken.jp/brict/Yoshizawa/Lectures/index.html

- ✓ Q1(最も簡単): ppm画像を拡大・縮小、シエア変換、回転するプログラムを作成.
- ✓ Q2: pgm画像を大津の方法を用いて二値化するプログラムを作成.
- ✓ Q3(最も簡単): ラベリングと細線化の実行結果を載せて考察.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q1: Ex02内のファイル

www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Ex02.zip

- ✓ ppmio.h, pgmio.h, SimpleImage.h
- ✓ Scaling.cxx: ppm画像拡大縮小用ソースコード.
- ✓ Rotation.cxx: ppm画像回転用ソースコード.
- ✓ Shearing.cxx: ppm画像シエリング用ソースコード.
- ✓ **affine.h: アフィン変換用関数(コレを編集).**
- ✓ interpolation.h: 補間用関数.

✓ Makefile: 端末にて「make」でコンパイル！
 - g++のオプションや実行ファイル名の指定、ソースコードのファイル名が記述してある.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q1: 拡大縮小

- ✓ 2次元配列A[2][2]にScaling行列をセットする関数を作ってみよう！

$$A = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$$

Ex02/affine.h内の...

```
void Scaling(double A[2][2], double xfac, double yfac){
    A[0][0] = xfac;
    A[0][1] = A[1][0] = 0.0;
    A[1][1] = yfac;
}
```

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q1: シェアリング

- ✓ 2次元配列A[2][2]にShearing行列をセットする関数を作ってみよう！

$$A = \begin{pmatrix} 1 & \alpha_s \\ \beta_s & 1 \end{pmatrix}$$

Ex02/affine.h内の...

```
void Shearing(double A[2][2], double xfac, double yfac){
    A[0][0] = A[1][1] = 1.0;
    A[0][1] = xfac;
    A[1][0] = yfac;
}
```

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q1: 回転

- ✓ 2次元配列A[2][2]に回転行列をセットする関数を作ってみよう！

- ✓ 注意1: cos(), sin()はmath.hをインクルードしてコンパイルのときには最後に「-lm」が必要. 絶対値を取る関数fabs(), abs()も同様.
- ✓ 注意2: math.hに入っている三角関数は弧度法(ラジアン)なので...

```
void Rotation(double A[2][2], double theta){
    double rad = (theta*PI)/180.0;
    A[0][0] = A[1][1] = cos(rad);
    A[0][1] = -sin(rad);
    A[1][0] = sin(rad);
}
```

Ex02/affine.h内の...

$$A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q1: 実際に逆変換をしてみる！

makeの後にScaling, Rotation, Shearingを動かしてみよう！(「make clean」で実行ファイルを削除可能).

- ✓ ./Scaling 入力ppm 出力ppm xの倍率 yの倍率
例: ./Scaling lena.ppm lena_scale.ppm 0.75 2.5
- ✓ ./Shearing 入力ppm 出力ppm xの比率 yの比率
例: ./Shearing lena.ppm lena_shearing.ppm 0.75 2.5
- ✓ ./Rotation 入力ppm 出力ppm 回転角度
例: ./Rotation lena.ppm lena_rotate.ppm 60.0

↑は3次スプライン補間を用いた逆変換でアフィン変換が実装されています.



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q2: 大津法のプログラムを作ってみよう！

www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/index.html
www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/Ex03.zip

- Ex03.zip内のOtsuBin.cxx: ppmファイルを大津の方法で二値化するプログラムの雛形ソースコード.
- OtsuBin.cxx内のコメントを参考にプログラムを完成させる.**
- 「make」でコンパイル.
- lena.pgm, Cameraman.pgm, Kanji_Iri.pgmを大津の方法で二値化しよう！
大津法の閾値: 118, 99, 127でもOK.: 演習のヒントに従うとこっち！



大津法の閾値: 117 大津法の閾値: 88 大津法の閾値: 126

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q2:OtsuBin.cxx内の説明

```

int main(int argc,char **argv){
  /* 入力用の画像を読み込む */
  Image *in = new Image(1);
  /* argvの数を数え、第一引数 argv[1]に入力ファイル名 */
  getPSM(in,argv[1]);
  /* 入力画像と同じサイズで出力用の画像クラス(オブジェクト)を作成 */
  Image *out = new Image(in->w,in->h);
  /* 大津法で閾値を計算 */
  int otsu_threshold = find_hist_threshold(in,255);
  getPSM(out,otsu_threshold,"otsu_threshold");
  /* 閾値を二値化 */
  int i;
  for(i=0;i<in->w;i++)
    for(j=0;j<in->h;j++){
      /* hist[i][j]での閾値(hist[i][j]が閾値以上、未満で二値化 */
      if(in->img[i][j]>otsu_threshold){
        out->img[i][j] = 255.0;
      }else{
        out->img[i][j] = 0.0;
      }
    }
  /* 出力画像を第二引数argv[2]の名前でpgm画像として保存 */
  savePGM(out,argv[2]);
  delete in;
  delete out;
  return 0;
}

```

makeHistogram()は画像in、頻度表の配列hist、及びピンの数Nを与えてhistの中へ結果を保存。

```

void makeHistogram(Image *in,
  int N,int Nimg,int Nhist,
  double *m1,double *m2,
  double *mn1,double *mn2,
  double *Smax){
  int i,j;
  double val;
  for(i=0;i<N;i++){
    for(j=0;j<Nimg;j++){
      /* 閾値を二値化 */
      val = (double)in->img[i][j]>otsu_threshold;
      /* 閾値が0のときはmn1,mn2,Smaxを計算する */
      if(i==0){
        *mn1 = *mn2 = *Smax = 0;
      }
      /* 閾値が0でない場合は */
      *m1 += val;
      *m2 += val*val;
      *mn1 += val;
      *mn2 += val*val;
      *Smax += val*(1-val);
    }
  }
  /* 閾値が0のときは */
  *m1 /= Nimg;
  *m2 /= Nimg;
  *mn1 /= Nimg;
  *mn2 /= Nimg;
  *Smax /= Nimg;
}

```

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q2:OtsuBin.cxx内の説明2

```

double getSmax(int thr,int N,long *hist){
  long mn1,mn2;
  double m1,m2;
  for(i=0;i<N;i++){
    mn1 += hist[i];
    mn2 += hist[i]*i;
  }
  double Smax = (mn1*mn2)/(mn1+mn2);
}

```

find_hist_threshold()で閾値が0~N-1までgetSmax()にてクラス間分散を計算

```

int find_hist_threshold(Image *in,int N){
  double Smax = 0;
  int i;
  for(i=0;i<N;i++){
    /* 大津法で閾値を計算する関数 */
    double m1,m2,mn1,mn2,Smax;
    makeHistogram(in,i,N);
    /* 初期化 */
    m1 = m2 = mn1 = mn2 = Smax = 0;
    /* 閾値が0でない場合は */
    Smax = getSmax(i,N,hist);
    /* 閾値が0の場合 */
    if(i==0){
      m1 = m2 = mn1 = mn2 = Smax = 0;
    }
    /* 閾値が0でない場合は */
    if(Smax < Smax){
      Smax = Smax;
      m1 = m1;
      m2 = m2;
      mn1 = mn1;
      mn2 = mn2;
    }
  }
  return Smax;
}

```

- 画像からヒストグラムを作成。ピンの数をNとする。
- 閾値が0のときのクラス間分散を計算しその値をSmax。そのときの閾値をTmaxとする。
- for(i=1;i<N;i++){
 1. 閾値がiのときのクラス間分散を計算しSとする。

$$S = \frac{m1(m1-mi)^2 + m2(mi-m2)^2}{(m1+m2)^2}$$
 2. もしもS>SmaxならばSmax=S, Tmax=Tとする。
- }
- Tmaxが大津の閾値となる。

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q2:Ex03.zip内のOtsuBin.cxx中で、

getSmax()内の平均(m1,m2)を求める計算にて、ゼロでの割り算を防ぐため、mn1がゼロの場合はm1もゼロ、mn2がゼロの場合はm2もゼロで計算してください。

32bit OS用にlongはlong longに直してください(Ex03.zipは直してありますが、Lec09でDownloadした人は要変更)。

大津法の正解閾値はLec07.pdf, Lec09.pdfの値より一つ値が大きいてもOKです。

大津法の閾値: 118, 99, 127でもOK: 演習のヒントに従うとこっち!

大津法の閾値: 117 大津法の閾値: 88 大津法の閾値: 126

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q3:プログラムの説明

Ex04.zipをダウンロード→解凍。
コンパイルは「make」、詳細はMakefileを見てください。

- LabelingRemoveSmall.cxx:(引数の数3) pgmを大津法+ラベリング(8連結)+第三引数以下の領域サイズを一つにまとめる(小さい面積の領域を統合)+ラベル毎に疑似カラーでppmで保存。
 - 実行方法: ./LabelingRemoveSmall 入力pgm 出力ppm 削除する領域の面積閾値(int)
- Thinning.cxx(引数の数2): 大津法+Hilditchの細線化。
 - 実行方法: ./Thinning 入力pgm 出力pgm
- ヘッダーファイル: otsu.h: 大津法, label.h: ラベリング, color.h: 疑似カラー, thinning.h: 細線化。
 - 実装の細部に興味がある人は見てください。

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q3:プログラムの実行例

領域抽出+ラベリングを行うと、表示の綺麗さだけでなく定量的な解析が可能になる(数、面積、境界形状の長さや曲率など)。

領域数220 領域数19 領域数14 領域数9

閾値:0 閾値:30 閾値:60 閾値:120

領域数220

入力 大津法二値化 ラベリング(ID=輝度値) ラベリング疑似カラー

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q3:プログラムの実行例2

細線化は幅が1画素の線になる。線あり:黒・なし:白の表示。

入力 大津法二値化 細線化

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

レポート3のヒント Lec13.pdfと同じ

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

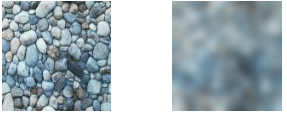

演習:レポート3の内容

www.riken.jp/briect/Yoshizawa/Lectures/index.html
Ex05及びEx06で端末にて「make clean」&「make」.

- ✓ Q4: Image Analogyを用いてオリジナルのエフェクト.
- ✓ Q1(簡単): 油絵効果、水彩画効果、線画効果、テクスチャー合成の4種類.
- ✓ Q2: Texture by Numbers.
- ✓ Q3: Poisson Image Editing.

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q4: Image Analogyでオリジナル効果

- Ex05内のSmoothingでtexture5.ppmをフィルタリング: 端末で
`./Smoothing texture5.ppm texture5_blur.ppm 5.0`

- ArtisticFilterを使って
`./ArtisticFilter texture5_blur.ppm texture5.ppm lena.ppm lena_r3q4.ppm 2.0 1000.0 2 display lena_r3q4.ppm`


Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q4: Image Analogyでオリジナル効果2

- 例えば「Zebra効果」、もしも以下の様なzebra.ppmを持っていたら、
`./Smoothing zebra.ppm zebra_blur.ppm 5.0`

- ArtisticFilterを使って
`./ArtisticFilter zebra_blur.ppm zebra.ppm lena.ppm lena_r3q4.ppm 2.0 1000.0 2 display lena_r3q4.ppm`

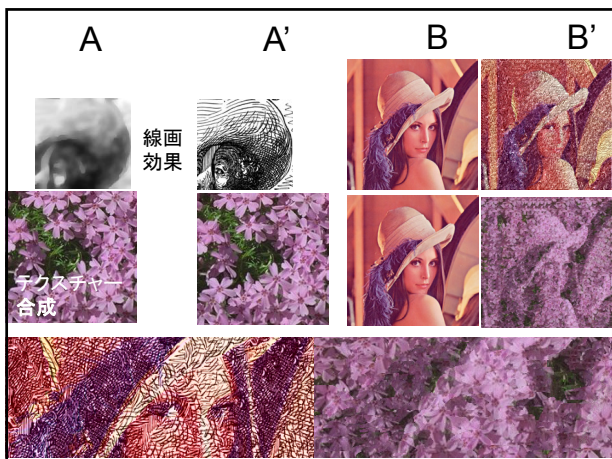

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q1: Image Analogy: Artistic Filters

- ✓ 端末でEx05に移動:もしもEx05をデスクトップで立ち上げていたら「cd ~/Desktop/Ex05」又はファイルブラウザのパスをコピーして端末に張り付けて「cd パス」でエンターキーを押す.

- 油絵効果**をlena.ppmに適用してみる: 端末で、
`./ArtisticFilter rhone-src.ppm rhone.ppm lena.ppm test1.ppm 2.0 1000.0 2`
 を打ち込んでエンターキーを押す. 実行が終了したら、端末で、
`display test1.ppm &`
 同様に、
- 水彩画効果**をlena.ppmに適用してみる:
`./ArtisticFilter watercolor-src.ppm watercolor.ppm lena.ppm test2.ppm 2.0 1000.0 2`
- 線画効果**をlena.ppmに適用してみる:
`./ArtisticFilter squire-blur.ppm squire.ppm lena.ppm test3.ppm 2.0 1000.0 2`
- テクスチャー合成**をlena.ppmに適用してみる:
`./TextureTransfer texture1.ppm texture1.ppm lena.ppm test3.ppm 2.0 1000.0 4 0.75`

	A	A'	B	B'
油絵効果				
水彩画効果				



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q2: NumberEditor & TextureByNumbers

- ✓ Image Analogy用TextureByNumbersのお絵かきGUI (Java).
- ✓ Ex06/NumberEditor/

- sh Run_NumberEditor.shで立ち上げてください。
- 画像を読み込む: File->Load ppm Image. [Ex05/darkclouds.ppm](#)を開いてみてください。
- お絵かき: 左ドラッグ: **木、岩、草原、空を違う色で塗ってみてください。**
 - 色を変える: 右下のSelectボタン。
 - ブラシのサイズを変える: 右のスクロールバー or マウスホイール。
 - 表示の透明度を変える: 下のスクロールバー。
- セーブ:File->Save Number Image. [A.ppm](#)という名前前で保存してください。

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

NumberEditor & TextureByNumbers2

- 追加のお絵かき: **木、岩、草原、空で使った色とほぼ同じ色で書き足してみてください。**
- マスク画像(ppm)をセーブ:File->Save Number Image. [B.ppm](#)という名前前で保存してください。
- A.ppmとB.ppmをEx05の下に移動(コピーでもカット&ペーストでもOK)してください。
- 端末を新たに立ち上げて、Ex05にcdで移動してください。もしもEx05をデスクトップで立ち上げていたら「cd ~/Desktop/Ex05」又はファイルブラウザのパスをコピーして端末に張り付けて「cd パス」でエンターキーを押す。

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

NumberEditor & TextureByNumbers3

- emacsでRun_TextureByNumbers.shを立ち上げて、以下の様書き換えてください。 ./TextureByNumbersの後の
 - ✓ 第一引数oxbow-mask.ppm は A.ppm
 - ✓ 第二引数oxbow.ppm は darkclouds.ppm
 - ✓ 第三引数oxbow-newmask.ppm は B.ppm
 - ✓ その後のppmファイル名も上のルールで変更してください。
- Run_TextureByNumbers.shをセーブ(上書き保存)してください。
- 端末にて「sh Run_TextureByNumbers.sh」で実行してみてください。

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Q3: Poisson Image editing & MaskEditor

- ✓ PIE用マスク作成GUI (Java): Ex06/MaskEditor/

- sh Run_MaskEditor.shでMaskEditorを立ち上げてください。
- Source画像を読み込む: File->Load Sourceで[Ex06/images/Keira02.ppm](#)を開いてください。
- Target画像を読み込む:File->Load Targetで[Ex06/images/MonaLisa.ppm](#)を開いてください。
- 左クリックでPolylineを生成して[Keiraの顔領域を作成](#)してみましょう!

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

MaskEditor2

- ✓ PIE用マスク作成GUI (Java): Ex06/MaskEditor/

- Source画像の大きさと位置を合わせる: [Keiraの顔とMonaLisaの顔の大きさと位置を合わせてみよう!](#)
 - 右クリックでMove Picを選べば平行移動可能。
 - 右クリックでAddを選べばPolyline作成モードに戻れる。
 - マウスの真ん中ホールで拡大縮小。
 - Polylineの頂点は左クリックで移動可能。
 - 下のスクロールバーで表示の透明度を変更可能。

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

MaskEditor3

- マスク画像(pgm)とTargetと同じ大きさのSource画像(ppm)の二つの画像をセーブ: File->Save Masks: ソースとマスクをKeiraMonaという名前で作ってみよう!

注:セーブするファイル名に拡張子はいらない:ファイル名.pgmとファイル

- 端末でPoissonImageEditorを以下の様に動かして合成してみよう!
 - 端末を立ち上げてEx06へ移動:「cd ~/Desktop/Ex06」.
 - ./PoissonImageEditor ./MaskEditor/KeiraMona.ppm ./MaskEditor/KeiraMona.pgm ./images/MonaLisa.ppm KM_PIE.ppm 1.0 0.0
 - display KM_PIE.ppm & **訂正あり**

Source Mask Target 合成結果

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

補足資料(Lec10.pdf): ANNのコンパイル

www.riken.jp/brict/Yoshizawa/Lectures/Ex05.zip

まずはじめに、ANNをコンパイルする。

- Ex05.zipを展開する。
- Ex05内にann_1.1.2.zipがあるので**Ex05内で展開する**。
- 端末でEx05/ann_1.1.2に入る、もしもデスクトップに展開していたら、「cd ~/Desktop/Ex05/ann_1.1.2」.
- コンフィギュレーションを行う**4.の後に**端末で「sh Make-config」でエンターキー。
- コンパイルする**5.の後に**端末で「make linux-g++」と打ち込みエンターキーを押す.Ex05/ann_1.1.2/libの下にlibANN.aが出来れば成功。
- Ex05で端末にて「make clean」&「make」.**

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

補足資料:Lec10.pdf

- ✓ Smoothing.cxx:ガウス平滑化を実行するプログラム:引数3:
 - Smoothing 入力.ppm 出力.ppm 平滑化度合(double)
 - 平滑化度合のパラメータは0より大きな実数2.0~20.0ぐらいが実用的。
- ✓ EdgePreservingFilter.cxx: エッジ保存平滑化を実行: 引数3
 - EdgePreservingFilter 入力.ppm 出力.ppm エッジの大きさ(double)
 - エッジの大きさパラメータは0より大きな実数0.5~2.0ぐらいが実用的。

EdgePreservingFilter, 1.0 入力 Smoothing, 5.0

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

プログラミング課題のヒント

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

出来る人のための課題1

- ✓ エンボス画像生成↓のプログラムを一から作成!

- pgm画像を読み込む、画像Aとする。
- ネガポジ反転し画像Bとする:

$$B \rightarrow \text{img}[i][j] = 255.0 - A \rightarrow \text{img}[i][j];$$
- Bを平行移動しAと合成する:

$$C \rightarrow \text{img}[i][j] = B \rightarrow \text{img}[i+t][j+t] + A \rightarrow \text{img}[i][j] - 128.0;$$
- 0~255に正規化しpgmでセーブ:

$$\text{out} \rightarrow \text{img}[i][j] = 255.0 * (C \rightarrow \text{img}[i][j] - \min(C)) / \text{fabs}(\max(C) - \min(C));$$

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

エンボス画像生成ヒント

- pgm画像を読み込む:
 - SimpleImage.hをincludeし入力画像用にメモリ確保を行う: Image *A = new Image();
 - pgmio.hをincludeしgetPGM(Image *,char *)を使う。
- ネガポジ反転し画像Bとする:
 - 画像BをAと同じサイズで確保する: Image *B = new Image(A->sx,A->sy);
 - forの二重ループ(0<=i<A->sy, 0<=j<A->sx)でBの中身(輝度値)を作る: B->img[i][j]=255.0-A->img[i][j];
- Bを平行移動しAと合成する:
 - 画像CをAと同じサイズで確保する: Image *C = new Image(A->sx,A->sy);
 - forの二重ループ(0<=i<A->sy-1, 0<=A->sx-1)でCの中身を作る: C->img[i][j] = B->img[i+t][j+t]+A->img[i][j]-128.0;

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

エンボス画像生成ヒント2

4. 0~255に正規化しpgmでセーブ:

- 出力用のoutをAと同じサイズで確保する:
Image *out = new Image(A->sx,A->sy);
- Cの輝度値の最小と最大を計算する:
double max,min;
max=min=C->img[0][0];
for(i=0;i<A->sy;i++)
for(j=0;j<A->sx;j++){
if(max<C->img[i][j])max=C->img[i][j];
if(min>C->img[i][j])min=C->img[i][j];
}
- forの二重ループでoutの中身を作る:
out->img[i][j]=255.0*(C->img[i][j]-min)/fabs(max-min);
- savePGM(Image*, char *)を使ってセーブする。
- newしたクラスはdeleteする事: delete A; delete B; delete C; delete out;

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

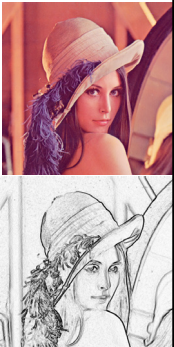
出来る人のための課題2

✓ 勾配強度画像生成↓のプログラムを一から作成!

- pgm画像を読み込む、画像Aとする。
- x,y方向の微分を差分近似し画像B,Cとする:
B->img[i][j]=A->img[i][j+1]-A->img[i][j];
C->img[i][j]=A->img[i+1][j]-A->img[i][j];
- 勾配ベクトルの大きさをDとする:
D->img[i][j] = sqrt(B->img[i][j]*B->img[i][j] + C->img[i][j]*C->img[i][j]);
- 0~255に正規化しpgmでセーブ:
out->img[i][j]=255.0*(D->img[i][j]-min(D))/fabs(max(D)-min(D));

$$\|\nabla I\| = \sqrt{I_x^2 + I_y^2} \quad \|\nabla I(x, y)\|$$

勾配強度画像



Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

勾配強度画像生成ヒント

- pgm画像を読み込む:
 - SimpleImage.hをincludeし入力画像用にメモリ確保を行う:
Image *A = new Image();
 - pgmio.hをincludeしgetPGM(Image *, char *)を使う。
- x,y方向の微分を差分近似し画像B,Cとする:
 - 画像B,CをAと同じサイズで確保する:
Image *B = new Image(A->sx,A->sy);
Image *C = new Image(A->sx,A->sy);
 - forの二重ループ(0<=i<A->sy, 0<=j<A->sx-1)でBの中身(輝度値)を作る: B->img[i][j]=A->img[i][j+1]-A->img[i][j];
 - forの二重ループ(0<=i<A->sy-1, 0<=j<A->sx)でCの中身(輝度値)を作る: C->img[i][j]=A->img[i+1][j]-A->img[i][j];
- 勾配ベクトルの大きさを画像Dとする:
 - 画像DをAと同じサイズで確保する:
Image *D = new Image(A->sx,A->sy);

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

勾配強度画像生成ヒント2

- 勾配ベクトルの大きさを画像Dとする:
 - forの二重ループ(0<=i<A->sy, 0<=j<A->sx)でDの中身(輝度値)を作る:
D->img[i][j]=sqrt(B->img[i][j]*B->img[i][j]+C->img[i][j]*C->img[i][j]);
- 0-255にしてセーブはエンボス画像生成と同じ方法:
 - 出力用のoutをAと同じサイズで確保する:
Image *out = new Image(A->sx,A->sy);
 - Dの輝度値の最小と最大を計算する:
 - forの二重ループでoutの中身を作る:
out->img[i][j]=255.0*(D->img[i][j]-min)/fabs(max-min);
 - savePGM(Image*, char *)を使ってセーブする。
 - newしたクラスはdeleteする事: delete A; delete B; delete C; delete D; delete out;

Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

出来る人のための課題3

✓ Gaussianフィルタ↓のプログラムを一から作成!

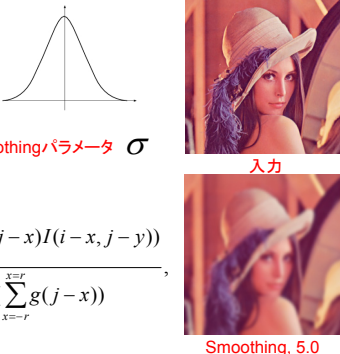
連続式: $I^{new}(x) = \frac{\int_{\Omega} g_{\sigma}(|x-y|)I(y)dy}{\int_{\Omega} g_{\sigma}(|x-y|)dy}$

ガウス関数 $g(r) = \frac{1}{2\pi\sigma^2} e^{-\frac{r^2}{2\sigma^2}}$ Smoothingパラメータ σ

離散化式: $I^{new}(i, j) = \frac{\sum_{y=-r}^{y=r} g(i-y) (\sum_{x=-r}^{x=r} g(j-x) I(i-x, j-y))}{\sum_{y=-r}^{y=r} g(i-y) (\sum_{x=-r}^{x=r} g(j-x))}$

重み付平均の半径 r

Smoothing, 5.0



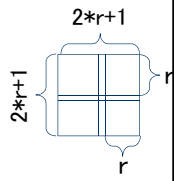
Shin Yoshizawa: shin@riken.jp

Gaussianフィルタヒント

✓ Gaussianフィルタ↓のプログラムを一から作成!

- pgm画像を読み込む、画像Aとする。
- ガウス関数画像Bを作る:
Image *B = new Image((2*r+1),(2*r+1));
double wsum=0.0;
for(i=-r;i<=r;i++)for(j=-r;j<=r;j++){
B->img[i+r][j+r] = exp(-(i+i+j*j)/(2*sigma*sigma));
wsum+=B->img[i+r][j+r];
}
- BとAを畳み込む(重み付和を計算する):
for(i=0;i<A->sy;i++)for(j=0;j<A->sy;j++){out->img[i][j]=0.0;
for(y=-r;y<=r;y++)for(x=-r;x<=r;x++){
if((i+y)>=0&&(i+y)<A->sy&&(j+x)>=0&&(j+x)<A->sx)
out->img[i][j]+=A->img[i+y][j+x]*B->img[y+r][x+r]/wsum;
}

セーブやoutの確保等は勾配強度画像などと同じ、ただし0-255に変換ではなくカット。



出来る人のための課題4



✓ Laplacianフィルタ↓のプログラムを一から作成!

連続式(拡散方程式):

$$\frac{\partial I(\mathbf{x}, t)}{\partial t} = \Delta I(\mathbf{x}, t),$$



離散式(拡散方程式の陽的前進一次差分近似):

$$I^{n+1}(i, j) = I^n(i, j) + \varepsilon(-9I(i, j) + \sum_{y=-1}^{y=1} \sum_{x=-1}^{x=1} I(i+y, j+x)) / 8,$$

ステップサイズパラメータ $\varepsilon < 0.5$

m回繰り返し適用する.

©CG-ARTS 発表

Laplacianフィルタヒント



1. pgm画像を読み込む: 画像Aへ.
2. n+1回目とn回目のテンポラリー用画像をC,Bとする:
 1. 画像B,CをAと同じサイズで確保する:
Image *B = new Image(A->sx,A->sy);
Image *C = new Image(A->sx,A->sy);
 2. forの二重ループ(0<=i<A->sy, 0<=j<A->sx)でBを初期化する:
B->img[i][j]=A->img[i][j];
3. m回繰り返しフィルタを適用する.

```
for(n=0;n<m;n++){
  for(i=1;i<sy-1;i++)for(j=1;j<sx-1;j++){double sum=0.0;
  for(y=-1;y<=1;y++)for(x=-1;x<=1;x++)sum += B->img[i+y][j+x];
  C->img[i][j] = B->img[i][j]+eps*(-9.0*B->img[i][j]+sum);
  }
  for(i=0;i<sy;i++)for(j=0;j<sx;j++)B->img[i][j]=C->img[i][j];
}
```

セーブやoutの確保等は勾配強度画像などと同じ、ただし0-255に変換ではなくカット.